



# コンクリート構造物表面保護工法

一材型ポリマーセメント系表面保護・剥落防止仕様

[東海道新幹線鉄筋コンクリート構造物維持管理標準  
コンクリート表面保護材C種準拠]

## セメンテックスRB-Eメッシュ工法

### 標準施工要領書

**オバナヤ・セメンテックス株式会社**

## 施工方法と使用材料

### ☆ 素地調整工

- コンクリート表面の脆弱部、レイトンス、塵埃、油脂類、苔類などライニングを行う上で支障となる有害物を確実に除去してください。
- 素地調整は原則として吸塵式バキュームブラシ、ウォータージェットを用いてください。使用が困難な場合には協議の上、吸塵式サンダー、吸塵式カップサンダーを用いてください。

### ☆ はつり工、鉄筋防錆工・断面修復工

別途断面修復工法に準じて行ってください。

### 工程 1. 浸透固化材（プライマー材）塗布工

コンクリート下地の脆弱部の浸透固化材として、OSプライマーERSを全面にハケまたはローラーにて塗布してください。

このプライマーは、湿気硬化型一液溶剤系エポキシプライマーですので、下地が湿潤状態でも水分と反応硬化します。

施工器具：ローラー、刷毛

材料	塗布量	塗布面積	工程間隔
OSプライマーERS 16kg缶入り	0.2kg/m <sup>2</sup> 1回塗り	80m <sup>2</sup>	2時間以上 48時間以内 (20℃)

※ 下地の吸い込みにより塗布量が異なります。

## 工程 2. 主材下塗り工

表面保護を目的としてしたセメンテックスVF-2をコテで転圧しながら均一に塗り付けてください。

施工器具：コテ

材料	使用量	塗布面積	工程間隔
セメンテックスVF-2 20kg袋入り 配合水 4.0~4.5割	2.4kg/m <sup>2</sup>	8.3m <sup>2</sup>	2時間以上 (20℃)

## 工程 3. メッシュ材の貼付け工

下塗り施工直後にメッシュを貼り付け、メッシュにシワがよらないようにコテで押さえ付けてください。メッシュの重ね部は3cm程度重ねてラップしてください。

材料	塗布量	塗布面積	工程間隔
ビニロンメッシュ#200 100m巻き	1.03m/m <sup>2</sup>	100m <sup>2</sup>	工程2と同時に 施工

※セメンテックスVF-2の所要量は工程3に含みません。

## 工程 4. 主材上塗り工

表面保護を目的としてセメンテックスVF-2をコテで転圧しながら塗り付け平滑に仕上げてください。表面保護材の下塗り、上塗りの施工管理を明確にするために色分けする場合は、上塗りに黒顔料（墨汁等）を少量添加してグレー色で行ってください。

施工器具：コテ

材料	使用量	塗布面積	工程間隔
セメンテックスVF-2 20kg袋入り 配合水 4.0~4.5割	1.2kg/m <sup>2</sup>	16.7m <sup>2</sup>	12時間以上 (20℃)

## 工程5. 仕上げ材塗布工

耐久性向上と美装を目的として、撥水性無機系塗料OSカラーSK-Dを全面に2回塗りしてください。

施工器具：ローラー、刷毛

材料	塗布量	塗布面積	工程間隔
OSカラーSK-D 20kg缶入り 調整水 0～1kg	0.4kg/㎡ 2回塗り	50㎡	1時間以上 (20℃)

※ コンクリート色（日本工業規格の色見本番号N-75）を標準とします。

特記) 仕上げ材の2回塗りの施工管理を明確にするために色分けする場合は1回目を白色、2回目をコンクリート色で行ってください。

仕上げ材下塗り（白 N-95）

材料	塗布量	塗布面積	工程間隔
OSカラーSK-D 20kg缶入り 調整水 0～1kg	0.2kg/㎡ 1回目	100㎡	1時間以上 (20℃)

仕上げ上塗り

材料	塗布量	塗布面積	工程間隔
OSカラーSK-D 20kg缶入り 調整水 0～1kg	0.2kg/㎡ 2回目	100㎡	

※ コンクリート色（日本工業規格の色見本番号N-75）を標準とします。

## ■使用上の注意事項

### (1) 材料配合上の注意事項

- 材料の練混ぜは仕様を十分に確認してから行ってください。
- 練混ぜに際しては、練りすぎによる泡の巻き込みに注意してください。
- 他の材料は一切混入しないでください。

### (2) 保管上の注意事項

- 材料の保管は直射日光を避け、常温（5～40℃）で保存してください。
- 保存が長期に渡ったものは使用しないでください。
- 保管はセメントと同様に取り扱い、一度開封して放置した商品は使用しないでください。
- 一度凍結した材料は絶対に使用しないでください。

### (3) 施工上の注意事項

- 5℃以下での施工は避けてください。やむをえず施工する場合は保温対策を講じてください。
- 湿度が85%以上又は結露の発生が考えられる場合は、施工を避けてください。
- 強風及び降雨・降雪の場合、又はそれらが予想される場合は施工を避けてください。
- 暑中、寒中の施工においては、十分な養生のもと施工を行ってください。
- 施工後、凍結の恐れがある場合は、作業時間帯を熟慮して保温養生を行ってください。
- 施工後、12時間以内に降雨が予想される場合は、施工を避けるか、施工箇所雨水が掛からないようシートで覆うなどして養生してください。
- 気温の高いときは材料の可使時間が短くなりますので、必要に応じ小分けして練混ぜてください。
- 気温・通風・直射日光・施工効率を考慮して、可使時間内に使用できる量を決めて練混ぜてください。
- 施工しない箇所は、前もってポリエチレンフィルム等で材料が付着しないよう注意してください。
- 取り扱いに当たっては、防塵マスク、保護メガネ、ゴム手袋等の安全保護具を着用してください。
- 施工器具類は使用后、速やかに水洗いしてください。
- 皮膚に付着した場合は、速やかに水で洗い流し、必要に応じて専門医の診察を受けてください。

※本商品の安全取扱い上の詳しい注意事項が必要なときは、安全データシート（SDS）をご請求ください。